

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 1 区分

【発行日】平成 18 年 6 月 22 日 (2006.6.22)

【公表番号】特表 2002-509516 (P2002-509516A)

【公表日】平成 14 年 3 月 26 日 (2002.3.26)

【出願番号】特願平 11-547503

【国際特許分類】

C 0 3 C 17/34 (2006.01)

【 F I 】

C 0 3 C 17/34 Z

【手続補正書】

【提出日】平成 18 年 2 月 24 日 (2006.2.24)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】補正の内容のとおり

【補正方法】変更

【補正の内容】

手 続 補 正 書

平成18年2月24日

特許庁長官 殿



1. 事件の表示

平成11年特許願第547503号

(PCT / BE 99 / 00036)

2. 補正をする者

事件との関係 特許出願人

名 称 グラヴルベル

3. 代 理 人

住 所 〒550-0001 大阪市西区土佐堀1丁目6番20号

氏 名 **A381** 新栄ビル6階 TEL(06)6441-1816
~~(10381)~~ 弁理士 風 早 信 昭

4. 補正対象書類名

明 細 書

請求の範囲

5. 補正対象項目名

明 細 書

請求の範囲



6. 補正の内容

(1) 明細書第3頁第9行～第14行「本発明によれば————透明基体が提供される。」を「本発明によれば錫の酸化物を含有する熱分解形成主要層を含む被覆積重ねを担持する透明基体において、積重ねが2.0～2.8の範囲の屈折率を有する外部反射層を含み、それによってそうして被覆された基体が15%以上の反射率（RL）を有することを特徴とする透明基体が提供される。」と訂正する。

(2) 請求の範囲を別紙の通り訂正する。

以 上

別 紙
請 求 の 範 囲

1. 錫の酸化物を含有する熱分解形成主要層を含む被覆積重ねを担持する透明基体において、積重ねが2.0～2.8の範囲の屈折率を有する外部反射層を含み、それによってそうして被覆された基体が15%以上の反射率(RL)を有することを特徴とする透明基体。
2. 外部反射層がニッケル、錫、チタン、亜鉛及びジルコニウムの一つ又はそれ以上の酸化物を含有する請求の範囲1記載の透明基体。
3. 外部反射層が酸化チタンを含む請求の範囲1又は2記載の透明基体。
4. 外部反射層が30～150nm、好ましくは40～75nmの範囲の幾何学的厚さを有する請求の範囲1～3のいずれか記載の透明基体。
5. 主要層がアンチモン及び錫の酸化物を含有し、主要被覆層中のSb/Snモル比率が0.01～0.5の範囲である請求の範囲1～4のいずれか記載の透明基体。
6. 主要層が少なくとも250nmの幾何学的厚さを有する請求の範囲1～5のいずれか記載の透明基体。
7. 被覆積重ねが基体と主要被覆層の間に位置されたアンダーコートを含み請求の範囲1～6のいずれか記載の透明基体。
8. アンダーコートが1以上のケイ素の酸化物を含む請求の範囲7記載の透明基体。
9. アンダーコートの幾何学的厚さが60～75nmの範囲である請求の範囲7又は8記載の透明基体。
10. アンダーコートが被覆基体に対して反射における中性の色味を付与する請求の範囲7～9のいずれか記載の透明基体。
11. 被覆積重ねが主要被覆層と外部反射層の間に位置された中間層を含み請求の範囲1～10のいずれか記載の透明基体。
12. 中間層が酸化アルミニウム又は酸化ケイ素を含む請求の範囲11記載の透明基体。
13. 少なくとも60%の視感透過率(TL)を有する請求の範囲1～12のい

ずれか記載の透明基体。

14. 10%より小さい反射における純度を有する請求の範囲1～13のいずれか記載の透明基体。

15. 25%の最大反射率(RL)を有する請求の範囲1～14のいずれか記載の透明基体。

16. 1より大きい選択性(LT/SF)を有する請求の範囲1～15のいずれか記載の透明基体。

17. 請求の範囲1～16のいずれか記載の透明基体を含む窓ガラスパネル。

18. 2以上の基体シートを含み、その一つが請求の範囲1～16のいずれか記載の透明基体である請求の範囲17記載の窓ガラスパネル。

19. 建造物窓ガラスパネルとして使用するための請求の範囲17又は18記載の窓ガラスパネル。

20. 車両窓として使用するための請求の範囲17又は18記載の窓ガラスパネル。